

令和5年度 スポーツ庁 地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業

北海道における スポーツ医・科学サポート体制構築事業

片寄正樹

北海道スポーツ医・科学コンソーシアム
運営委員会委員長

札幌医科大学 理事・保健医療学部長

地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業

令和5年度予算額(案) 82,640千円
(新規)



背景・課題及び事業目的

「誰もがアクセスできる」スポーツと持続可能な国際競技力向上の実現のため、「第3期スポーツ基本計画」(令和4年3月25日策定)では、居住地域に関わらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学のサポートを受けられる環境を整備していくこととしている。一方で、地域における競技力向上の現場では、スポーツ医・科学支援の仕組み内容や実施体制は様々であり、また国民体育大会を開催した都道府県の実施体制が開催後に縮小される事例も散見される。このため、庁内に「地域におけるスポーツ医・科学支援の在り方に関する検討会議」を設置し、地域レベルで提供されるべきスポーツ医・科学支援の内容やその対象、提供体制の在り方について議論を重ねてきた。本検討会議における議論を踏まえ、本事業では、地域のスポーツ医・科学センターをはじめとする関係機関が連携・協働して地域のアスリート等にスポーツ医・科学支援を提供する体制のモデル構築を目指す。

事業内容

各地域のスポーツ医・科学センターや関係団体(地方公共団体、体育・スポーツ協会、障害者スポーツ協会、競技団体、競技別強化拠点、大学、医療機関、企業等)によるコンソーシアムを形成し、関係機関間の情報・ナレッジ・リソースの連携・共有、ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)との連携等により、スポーツ医・科学支援対象の拡大や支援内容の質の向上等を行う取組を支援する。

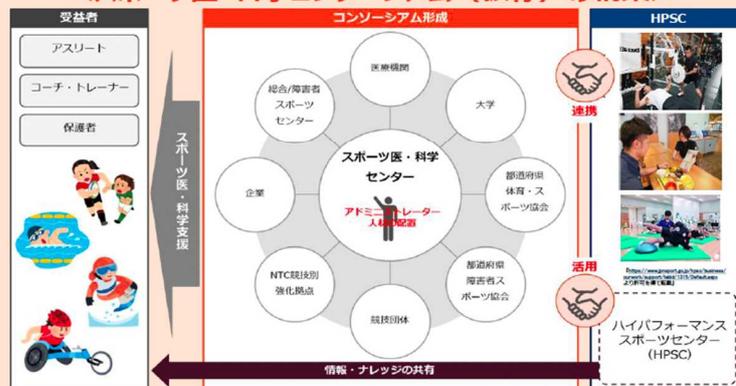
事業規模

件数・単価: 約17百万円×5箇所
事業年数: 3年
委託先: スポーツ医・科学センター等
対象経費: 人材配置費、会議開催費、活動旅費等

スポーツ医・科学支援の内容

・メディカルチェック/サポート
・栄養サポート
・フィジカル・フィットネス
・動作分析
・チェック/サポート
・レース・ゲーム分析
・映像/ITサポート
・フィジカルトレーニングサポート
・心理サポート

<スポーツ医・科学コンソーシアム(仮称)の構築>



コンソーシアム(仮称)による 支援対象範囲の拡大

国際大会出場レベル
↑
全国大会出場レベル
(国体強化指定選手等) now
↓
都道府県大会出場レベル
学校運動部活動
地域のスポーツクラブ

現在、国体強化指定選手等、全国大会出場レベルで実施されている地域でのスポーツ医・科学支援を国際大会出場レベル～都道府県大会出場レベルまで拡大

アウトプット(活動目標)

・対象地域において、スポーツ医・科学コンソーシアム(仮称)を形成し、情報やナレッジ・リソースの共有を図ることにより地域におけるスポーツ医・科学サポート体制のモデルを創出

アウトカム(成果目標)

初期(令和5～7年頃)
・モデル地域における、アスリート・コーチ・トレーナー・保護者等医・科学支援対象範囲の拡大(全国～県レベルまで)
・モデル地域におけるスポーツ医・科学サポートの質の向上(HPSCに準じたサポートを実施)
中・長期(令和8年頃～)
・事業を通じて得られたノウハウ等を全国的に展開し、受益者を拡大、全ての地域でコンソーシアムを形成

インパクト(国民・社会への影響)

○居住地域に関わらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学支援を受けられることにより、持続可能な国際競技力の向上を実現
○日本全国での国民のスポーツへの関心の向上

1. 事業全体の趣旨・目的

趣旨・目的

冬季競技の年代別トップアスリートや、北海道各地域に潜在する高い競技能力をもつ部活動アスリートに焦点をあて、居住地域にかかわらず、冬季競技アスリートのポテンシャルを中長期的に発揮させていく育成環境を目指したスポーツ医・科学支援体制を構築すること

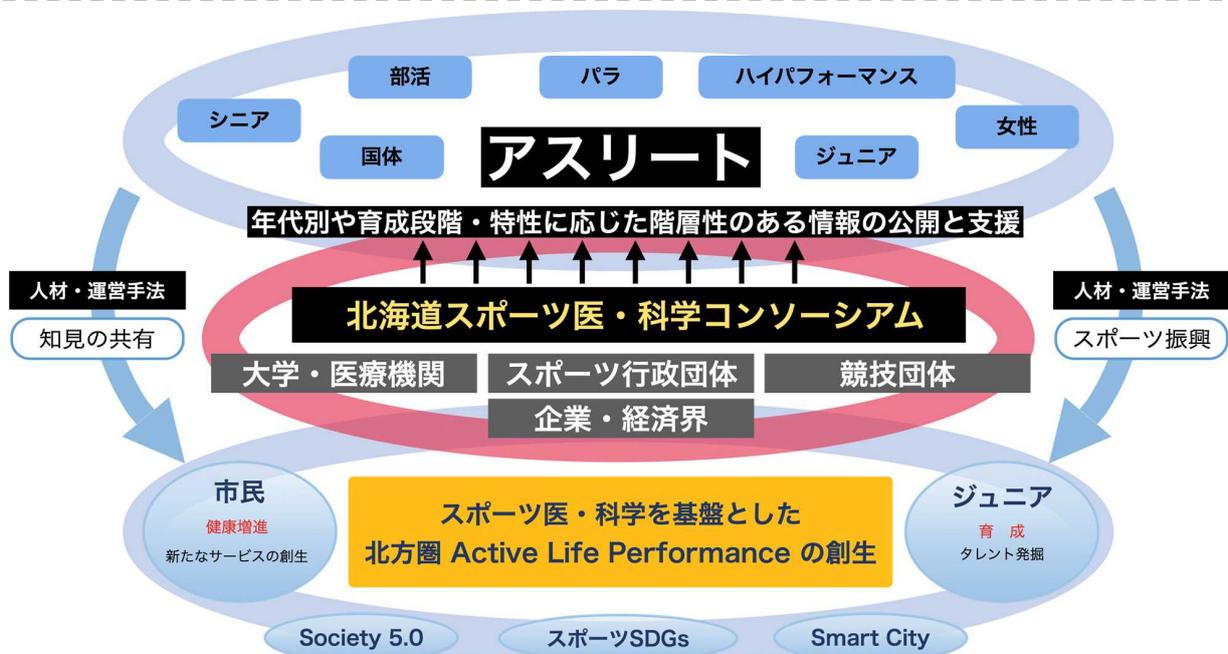
事業における成果目標と指標

- ・道内のスポーツ医・科学リソースのデータベースを構築および支援を受ける側が容易にアクセス可能となるシステムの確立
- ・地域中核拠点やICT技術を活用した複合的医・科学的サポート体制の構築
- ・冬季競技と連携した選手への医・科学的サポートによる競技力の向上と支援環境の拡充
- ・道内女性アスリートに対する持続的医・科学支援システムの確立

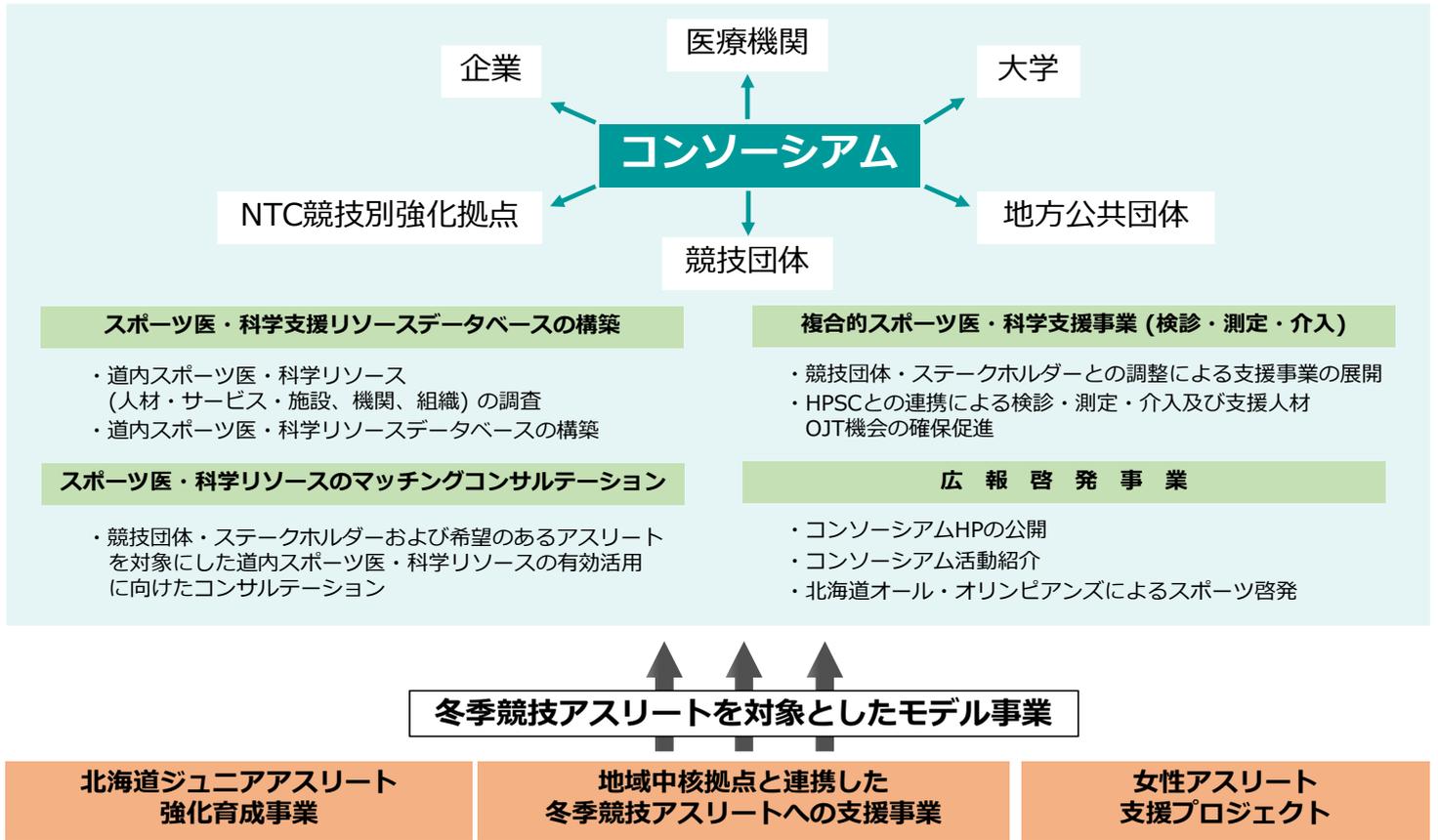
1. 事業全体の趣旨・目的

事業終了後の展望

- ・安全安心を確保したアスリートのポテンシャルを中長期的に発揮させていく育成環境を目指したスポーツ医・科学支援体制を持続的に運用する。
- ・ジュニア期からのタレント育成や市民の健康増進へも貢献できる「スポーツ医・科学を基盤とした北方圏Active Life Performanceの創生」を目指し企業・経済界および官民連携での事業維持体制を構築する。



2. 令和5年度実施内容

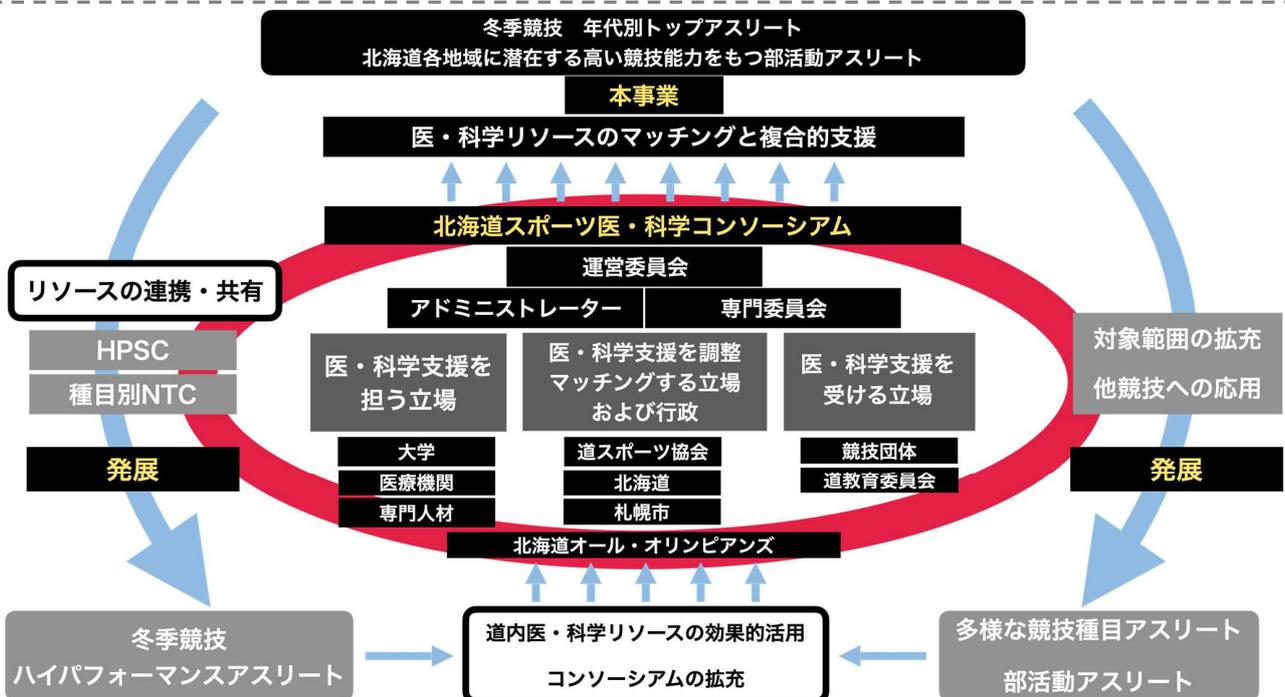


2. 令和5年度実施内容

全体会議用フォーマット

地域における関係機関の資源の共有・連携を目的としたコンソーシアムの形成

- ・スポーツ医・科学支援リソースを有する大学・医療機関（支援を担う立場）
 - ・競技団体、北海道教育委員会（支援を受ける立場）
 - ・北海道スポーツ協会、北海道、札幌市（関係機関との調整・連携）
- から構成し設立済み



2. 令和5年度実施内容

北海道スポーツ医・科学コンソーシアムの設立



北海道スポーツ医・科学コンソーシアムスタート記念シンポジウム「北海道のスポーツと医・科学の未来」が開催されました

北海道スポーツ医・科学コンソーシアムの成立を記念して、シンポジウムが開催されました！

9月5日（火）18時から京王プラザホテル札幌で北海道スポーツ医・科学コンソーシアムスタート記念のシンポジウムが開催され、鈴木知事が出席しました。



北海道スポーツ医・科学コンソーシアムスタート記念シンポジウム

北海道のスポーツと医・科学の未来

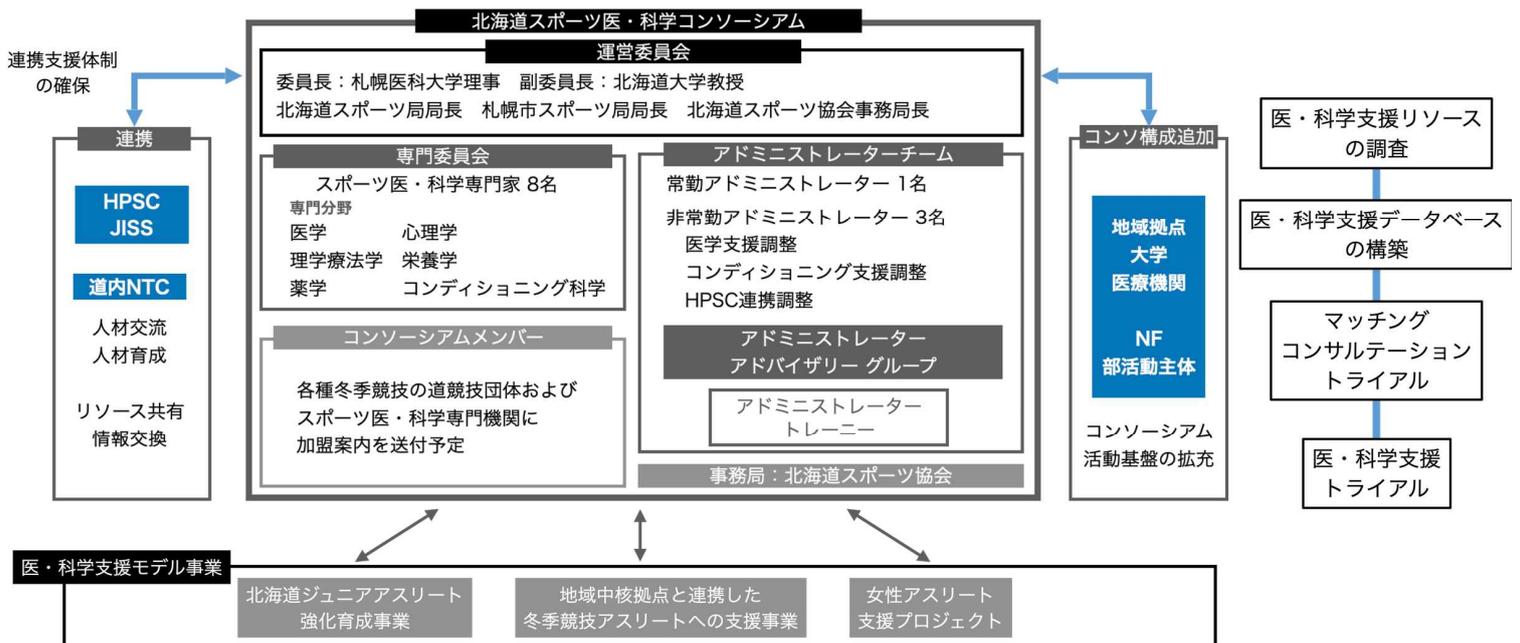
講演
スポーツ医・科学が目指すこれからの役割
～ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ～
北海道スポーツ医・科学コンソーシアム
運営委員会委員長
片寄 正樹 氏（札幌医科大学保健医療学部長）

対談
北海道のスポーツと医・科学の未来について
ゲスト：長野五輪 男子スピードスケート金メダリスト
清水 宏保 氏
（株式会社two.seven代表取締役）

聞き手：北海道スポーツ医・科学コンソーシアム専門委員会委員
渡邊 耕太 氏（札幌医科大学附属病院スポーツ医学センター長）

3. 令和5年度実施体制

体制図



特記事項

コンソーシアムの運営調整およびステークホルダーとの渉外にあたる運営委員会、スポーツ医・科学支援の専門的企画・実施を管理する専門委員会を組織し、アドミントレーターの活動を支えていく。

2. 令和5年度実施内容

コンソーシアム形成の中核となるアドミニストレーターの確保・配置

アドミニストレーターチーム

常勤アドミニストレーター

非常勤アドミニストレーター

アドミニストレーター
アドバイザーグループ

アドミニストレーター
トレーニー

・常勤アドミニストレーター1名

(北海道スポーツ協会
スポーツ医・科学支援
トータルサポート事業担当者)

・非常勤アドミニストレーター3名

(医学リソース連携、
コンディショニングリソース連携、
HPSC・国立スポーツ科学センター連携)

・アドミニストレーターアドバイザーグループ

(道内在住のJOCやNF医・科学委員をはじめ
道内競技別NTC医・科学コーディネーターの
実務経験者)

・アドミニストレータートレーニーの育成

(OJT環境の確保によるアドミニストレーター人材育成
に向けたプログラムの開発・実施)

**多様な専門家との連携を確保した
少数チーム制によるアドミニストレーターマネジメント**

2. 連携窓口

コンソーシアム形成の中核となるアドミニストレーター

アクセス：きたえる内 コンソ事務局

TEL: (011) 820-1704 ※競技スポーツ課

・常勤アドミニストレーター1名

北海道スポーツ協会 千葉智史

・非常勤アドミニストレーター3名

医学リソース連携 戸田創

コンディショニングリソース連携 鎌倉一

女性アスリートサポート連携 高橋小夜利

HPSC・国立スポーツ科学センター連携 高橋小夜利

**多様な専門家との連携を確保した
少数チーム制によるアドミニストレーターマネジメント**

冬季競技団体との連携にむけた情報交換の推進に向けて

道内冬季競技団体 医科学委員会担当者様との情報交換



令和5（2023）年7月20日

北 海 道
札 幌 市
北海道公立大学法人札幌医科大学
公益財団法人北海道スポーツ協会

北海道スポーツ医・科学コンソーシアムの設立について

スポーツ庁が実施する「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」の公募が行われ、北海道スポーツ協会、北海道、札幌市及び札幌医科大学が連携して申請した計画が採択されたことを受け、この度、北海道スポーツ医・科学コンソーシアムを設立しました。コンソーシアムは申請4団体が中核となり、今後、スポーツ関係団体、道内大学、医療機関、行政等の参加団体を拡充して、オール北海道で地域のアスリート等へスポーツ医・科学の支援を行う体制づくりを進めてまいります。

【北海道におけるスポーツ医・科学サポート体制構築の概要】

1. 事業目的等
冬季競技の年代別トップアスリートや、道内各地域に潜在する高い競技能力を持つ部活動アスリートに焦点をあてたスポーツ医・科学支援体制を構築し競技力の向上を目指す。
2. 事業主体
北海道スポーツ医・科学コンソーシアム
(事務局：公益財団法人北海道スポーツ協会)
3. 事業期間
令和5年度から令和7年度まで
4. 事業内容
 - ・ 今後、参加団体を拡充し、アスリートへのスポーツ医・科学支援体制を整備。
 - ・ コンソーシアムで実施する冬季競技アスリートへのスポーツ医・科学支援体制構築をモデル事業とし、将来的には全競技へと発展を目指す。

<参考>スポーツ庁「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」概要

- ・ 事業目的等
第3期スポーツ基本計画にある、居住地域にかかわらず全国のアスリートがスポーツ医・科学による適切なサポートを受けられるような環境整備を推進するため、地域のスポーツ医・科学センターをはじめとする関係機関が連携・協働して地域のアスリート等にスポーツ医・科学支援を提供する体制のモデル構築を目指す3年間のプロジェクト。
※全国で5団体が採択
- ・ 事業内容
関係団体（地方公共団体、体育・スポーツ協会、大学、医療機関等）によるコンソーシアムを形成し、関係機関間の情報等の連携・共有によりスポーツ医・科学支援対象の拡大や支援内容の質の向上等を行う取組を支援。

(連絡先)

公益財団法人北海道スポーツ協会（担当：千葉） TEL：011-820-1704

北海道におけるスポーツ医・科学サポート体制構築

- 【概要】** スポーツ庁が実施する地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業の採択を受け、札幌医科大学、北海道、札幌市、（公財）北海道スポーツ協会で「北海道スポーツ医・科学コンソーシアム」を設立（R5.7.19）
- 【事業目的】** 冬季競技の年代別トップアスリートや道内各地域に潜在する高い競技能力を持つ部活動アスリートに焦点をあてたスポーツ医・科学支援体制の構築。
- 【事業内容】** コンソーシアムで実施する冬季競技のアスリートへのスポーツ医・科学支援体制構築をモデル事業とし、将来的には全競技へのスポーツ医・科学支援体制の整備を目指す。

